

ライオンの同居作戦。そして…

『大森山動物園では3頭のライオンを飼育していました』 「王者の森の主」という異名を持ち、長年大森山動物園で活躍してきたメスのミカ(19才)と、昨年6月26日に東京都多摩動物公園からやってきたメスのララ(3才)、オスのカズ(2才)です。しかし、ライオンは「プライド」と呼ばれる群れを作り、それぞれのプライドによって縄張りを持っています。そのため、同じライオンとはいっても別の環境で暮らしてきた個体を簡単に同時展示することは難しく、この3頭のライオンを一度に見せることはできませんでした。時折、お客様の「2頭しかいないよ…」という声を耳にすることも。

ララとカズが訪れて1年になるうとしていた5月17日、いよいよメス同士のミカとララを同居させてみるようになりました。2頭はこれまで相手の姿を見ることはなくても、寝室内では「壁を隔てた隣人」だったので、声や臭いで十分にお互いを感じていたはず。私たちはドキドキしながらその様子を伺っていました。2頭を同時に展示場へ、直ぐに顔を向き合わせて互いの匂いを嗅ぎあっていましたが、その後は一定の距離を保ちリラックスした様子を見せてくれました。一同が心からホッとした瞬間でした。数日後の5月26日、今度はオスのカズとミカとの同居です。好奇心旺盛な若いカズは外に出ると直ぐ、ミカに歩み寄って行きましたが、ミカに軽く威嚇されると、体がガチガチになっていました。まさにミカの貫禄勝ちです。そしてその日の午後、約1年間同じ建物内ですれ違いの生活をしてきた「3頭」の同居に成功しました。「ここで、この飼育レポートは終わるはずだったのに…」

しかし、私たちが安心して始めた6月10日。園内に激震が走ったのです。ミカはカズとのトラブルが原因で深い傷を負ってしまい16:30頃に息を引き取りました。「頸部咬傷、頸椎骨折」が死因でした。突然の悲劇に、「何故」という言葉しか浮かんできません。「王者の森の主」と呼ばれたその貫禄、彼女の誇りを思うと駆けつけた職員は皆、直視できずに立ちすくんでしまいました。天国では「王者の森以上の大きなプライド」の中で、主(ぬし)としてゆっくりとくつろいで欲しいと願います。長い間本当にお疲れさま。



動物病院から

うまいものには毒がある

飼育展示担当(獣医師) 高橋 広志

ある日の夕方、外に展示していた「チンパンジー3人」をいつものように寝室内に収容したところ、ふだんはまっ先に餌に飛びつく“食いしん坊”のユミノスケとミユキが、大好きなバナナにも手をつけず元気がありません。不審に思って展示場を調べてみると、いたるところに下痢便や吐いた跡があって、どうも何か変なものを食べて胃腸をこわした様子です。「お客さんからお菓子でももらったかな?」とも思いましたが、それにしては症状があまりに重く、特にミユキの方はグッタリと横になって目つきもうつろです。

「これはただの下痢じゃないな」と思い、もう一度展示場をよく観察してみると、便や吐き跡の中に木クズのようなものがたくさん見え、前日に遊具として設置した丸太の樹皮がはがれ、歯形がたくさん付いているのが分かりました。どうやら、丸太の皮を食べて「食中毒」になってしまったようです。後で分かったことですが、この丸太はニセアカシヤという木で樹皮にロピチンという毒が含まれ、食べると時には死に至ることもあるそうです。この時は、食べた量が少なかったからか、2人とも次の日には元気に回復してホッと一安心。それからというものさすがの食いしん坊2人も、この丸太の皮には見向きもしなくなりました。それにしても、同じ日に展示していた3人のなかでしっかり者のノリコだけは体調も食欲もくずさず、樹皮をまったく口にしていなかったようです。ノリコ、君は長生きするよ!